

01

2月2026

またおひとり 御国に旅立たれました。

by NCM2 CHOIR

全4page



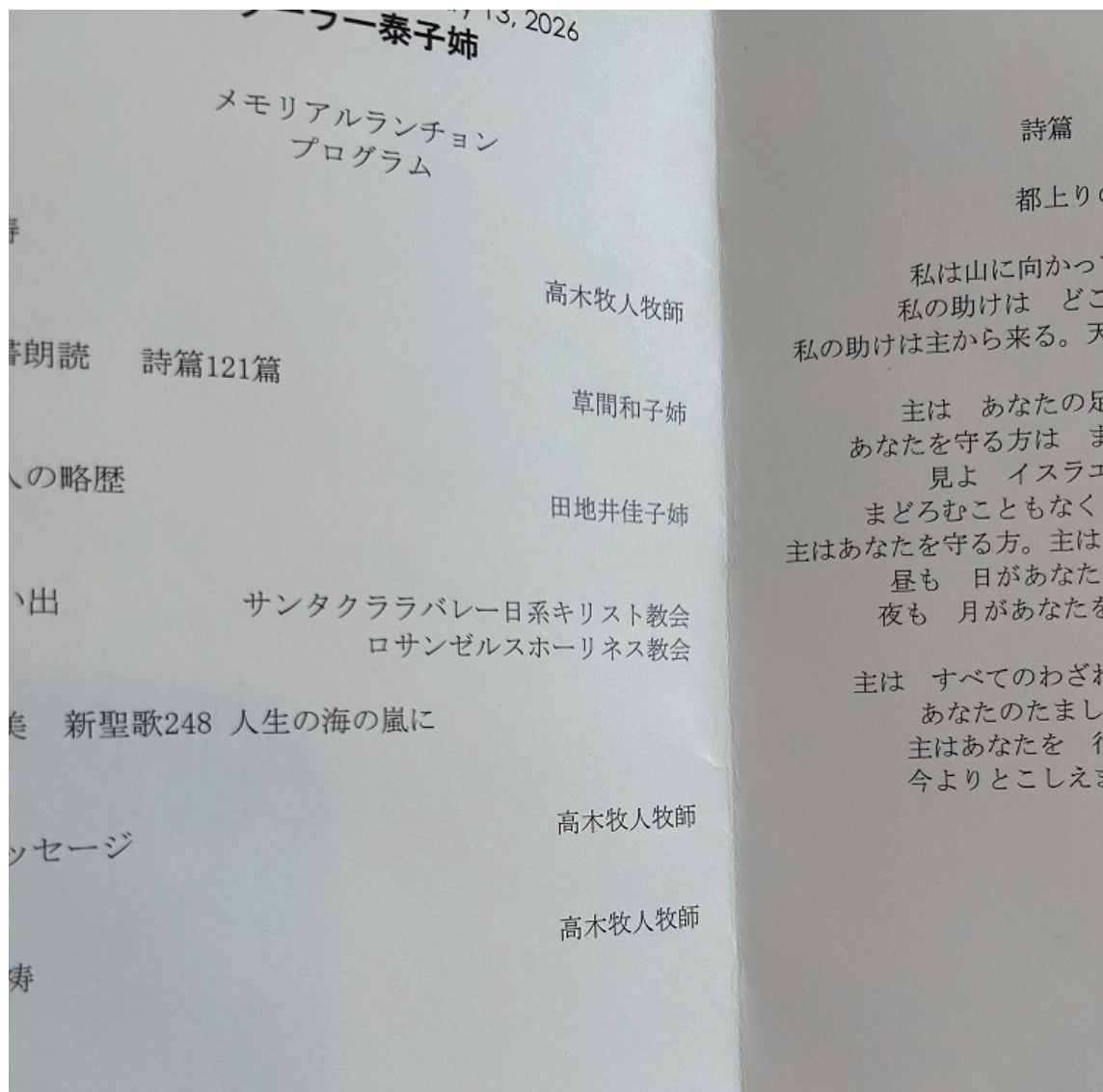
教会のズームによる祈祷会でいつもお祈り仲間だった姉妹が突然召されました。がんが再発して薬の服用治療をされているとはおききしていましたが、いつもはつらつとして、やつれてもいず、しかも笑顔で全然病人とは見えなかったのが、突然というおもいでした。

たしかに礼拝にはもう来られなくなっていました。最後の3回ほど祈祷会を欠席されたので、お電話しましたが、お出になりませんでした。

残された娘さんのお話では彼女は日本人の典型で、周りの人を心配させることを嫌っていたので、ご自分が弱っていてもそれを周りの人に伝えなかったのだといいます。

いつも「日本語で話せる教会が与えられていることはなんと幸せなことでしょう。」と感謝し、「牧師のために祈りましょう」と祈りの課題を出されていました。

お隣に住むお嬢さんやお孫さんの救いをおもい、おひとりのお孫さんには詩篇の1篇の最初、
「幸いなことよ、悪しきもののはかりごとに歩まず、罪人の道に立たずあざけるものの座に着かない人……」から幸さんと名づけられたというお話もたびたびお聞きしました。



お葬式はなさらないというご家族の方針でしたので、教会で礼拝後” Celebration of the Life” と題して彼女の召天記念会を行いました。

日本でアメリカ人の御主人と知り合い、渡米。結婚式も私たちの教会でなされたのだそうです。50年以上も前のことです。そのご主人と離婚、再婚されたご主人とは死別……

新聖歌248 人生の海の嵐に

詞: Henry L. Gilmour, 曲: George D. Moore

1, 人生の海の嵐に もまれ来しこの身も
不思議なる神の手により 命びろいしぬ

いと静けき港に着き われは今 安ろう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し

2, 悲しみと罪の中より 救われしこの身に
誘(いざな)いの声も魂 揺すぶること得じ

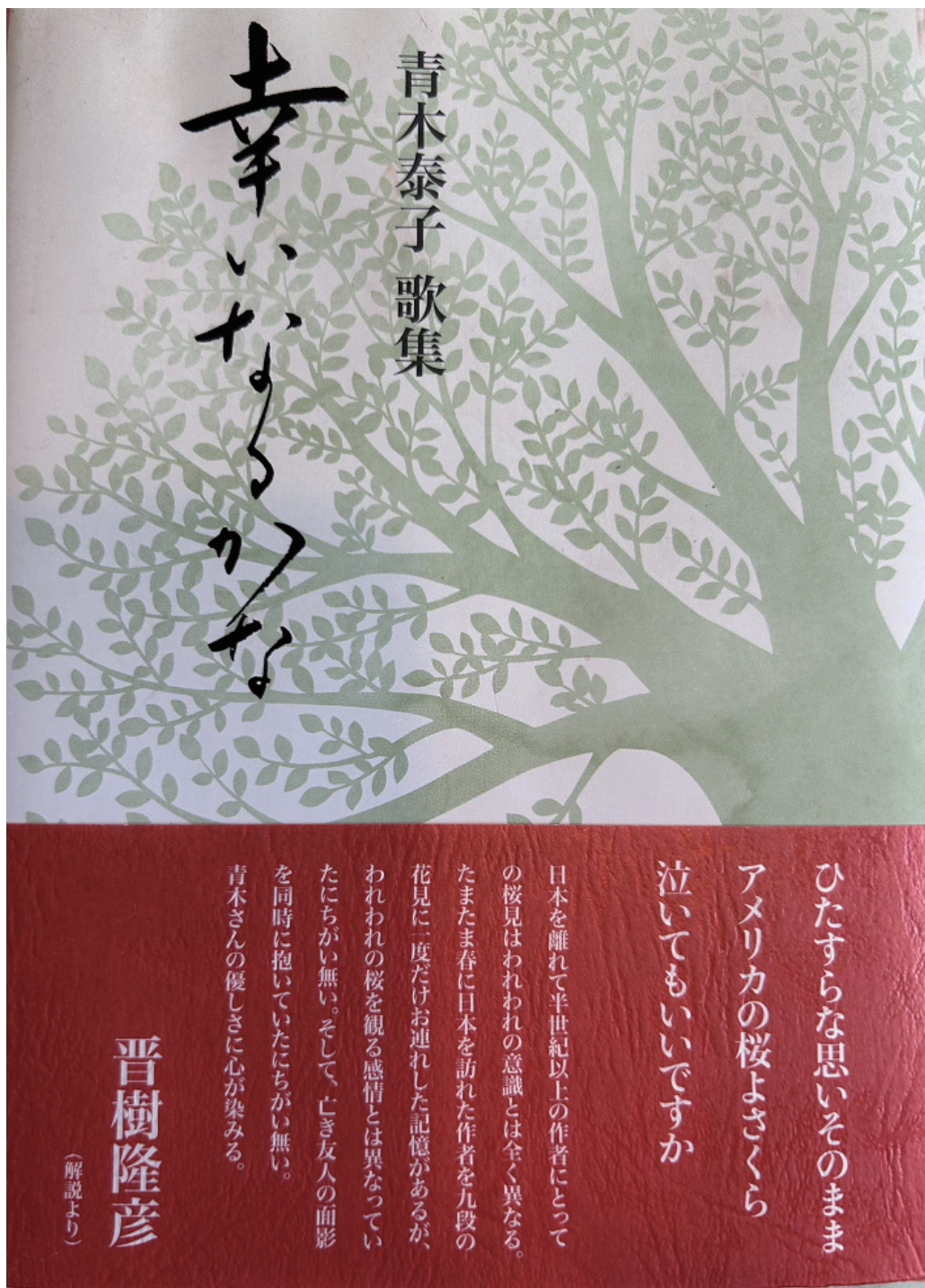
いと静けき港に着き われは今 安ろう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し

3, すさまじき罪の嵐の もてあそぶまにまに
死をまつは誰(たれ)ぞ 直ちに 逃げこめ港に

いと静けき港に着き われは今 安ろう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し

いろいろな人生の海の嵐にあわれたようです。記念会の中で新聖歌248「人生の海の嵐に」を歌いました。

そう、彼女は今静かな港について、イエス様のもとで安らいでいるのですね。



歌人であった彼女は最後の最後まで和歌を詠んでいらしたそうです。

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00)

メール noriko55@lime.ocn.ne.jp

URL <http://www.oriochristianchurch.net>